

# **災害時の住民用パンフレット（アクアリーナ ロッソタワー）**

**2025年12月版**

近年、地震や集中豪雨などによる災害が多くなっています。

私たちが所属する戸手多摩川町内会では議論を重ね、災害に備えたパンフレットを作成しました。

これを受け、アクアリーナ ロッソタワー理事会は、これだけは知っておいて欲しい内容を追加、わかりにくい表現を修正して、ロッソタワーの皆さま向けのパンフレットを作成しました。

パンフレットをご確認いただき、災害への意識を高めていただけますと幸いです。

- 目次
- 1. 災害時に関して、これだけは知っておいてください
- 2. 戸手多摩川町内会 在宅避難向けパンフレット（抜粋）
  - 2-1. 基本方針
  - 2-2. 災害が起きる前の準備
  - 2-3. 災害発生後
  - 2-4. その他（参考情報）

## 1. 災害時に関して、これだけは知っておいてください

- ・アクアリーナは、**在宅避難**です。  
御幸中などの避難所は利用できません。
- ・町内会、マンションの理事会、マンションの管理会社には、  
**食糧・防災用品・トイレなどの備蓄はありません**。停電時は水道も使えなくなります。  
市や区からの配給も期待できません。普段から**各戸で必要な備蓄をしてください**。
- ・**トイレ・台所・風呂・洗面所・洗濯機など、一切の排水は禁止です。**  
下水管などが破損している場合、マンションから排水できず、低層階に汚水が溢れてしまいます。  
水道が使えるようになっても、下水管など破損の確認が必要となります。  
**理事会から連絡があるまで絶対に排水しないでください。**
- ・オートロックが正常に機能せず、防犯の問題が起き易くなります。  
**不審な人物を見かけたら、すぐに理事会に連絡をください。**  
また、平常時から同じフロアの方と面識を持ち、不審な人物を判断できるようにしておいてください。
- ・理事会が町内会等と連絡をとり、必要な対応を指示します。  
臨時の役割を住人の方にお願いする場合もあります。  
住人同士で協力して、復旧につなげていきましょう。

## **2. 戸手多摩川町内会 在宅避難向けパンフレット（抜粋）**

町内会のパンフレットからロッソタワーに関する部分を抜粋しました。  
オリジナルは、戸手多摩川町内会自主防災組織のサイトをご覧ください。

<https://todetamagawa.com/secret/jishubousai.html>

★は本マニュアル独自の記載です。

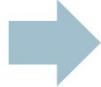
### **2-1. 基本方針**

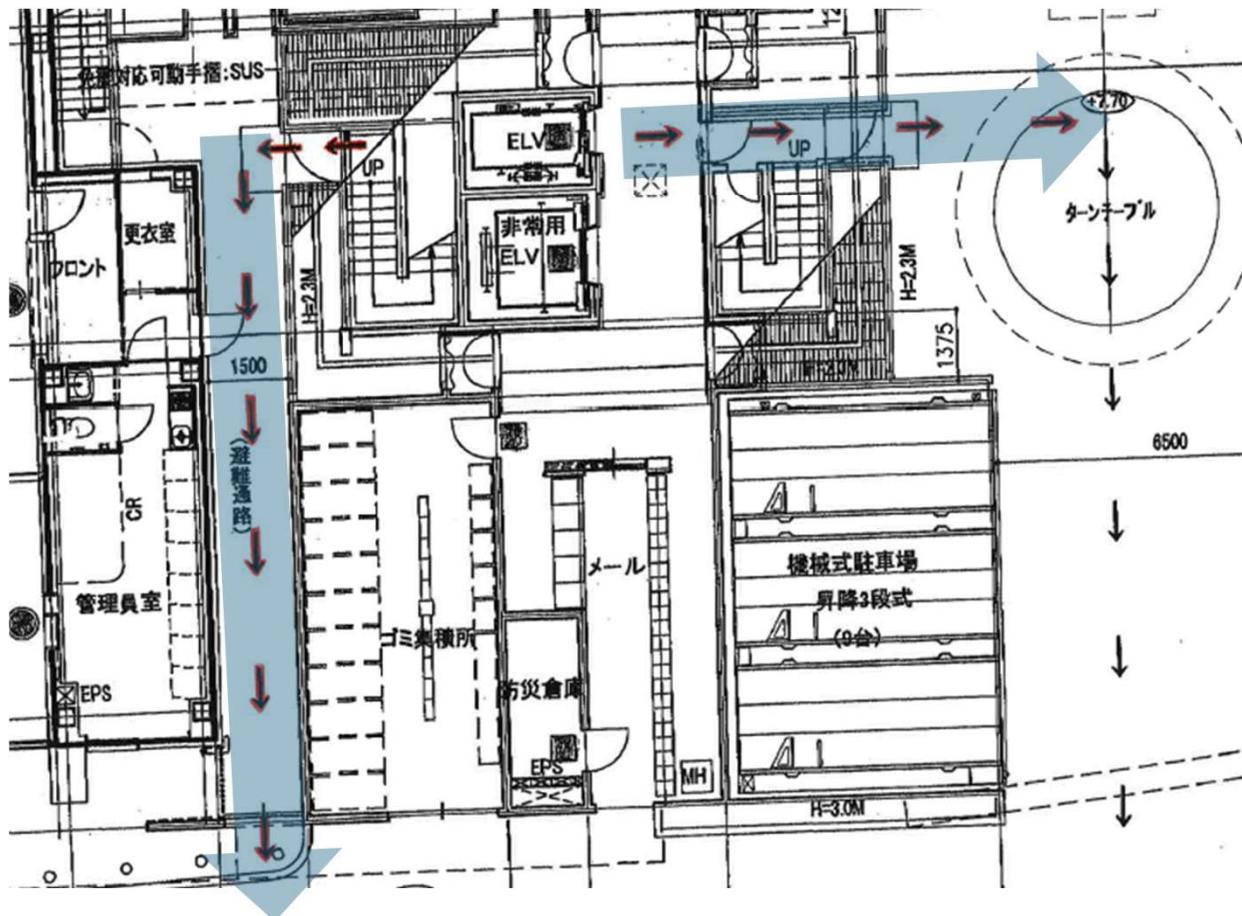
- A-1 各マンションの防災対策本部(理事会) は情報収集のうえ、  
町内会自主防災本部（戸手多摩川町内会）へ報告を行う。  
各戸は災害に対応すべく事前に準備を行う。  
(災害対策本部は情報を受取りマンションの代表として災害本部（行政）へ情報を上げる。)
- A-2 各戸では必要な防災用品、食料、水、簡易トイレ等を日頃から準備しておく。  
(約10日分を目安とする 防災対策本部、マンション、町内会での配布は行わない)
- A-3 アクアリーナ3棟は在宅避難。（強固な建物のため）  
原則＊避難所を利用しない。（＊御幸中学校）
- A-4 各戸では日頃から家具の転倒など怪我をしない準備・点検を行う。

## **2-2. 災害が起きる前の準備**

- B-1 1 F 非常階段出入口の使用方法確認を行う。 (避難訓練などで確認すること)  
⇒次のページ参照
- B-2 家族との連絡方法等を決めておく。(SNS等を利用)
- B-3 死傷者を出さないように準備をしておく。  
照明、家具転倒防止、食器棚のガラス扉に飛散防止フィルムを貼る等。
- B-4 10日以上の在宅避難の想定をしておく食料のローリングストックを用いて  
誰でも食事を作れるようにしておく。  
10日分×人数分の食料とカセットコンロとガスを用意する。  
(カセットガス1本当たり 強火65分 中火120分 湯煎1回40分くらい)
- B-5 ラジオ、モバイルバッテリー、乾電池の用意。
- B-6 マンションの消火器の場所確認。 (取り扱い方法) ⇒次のページ参照

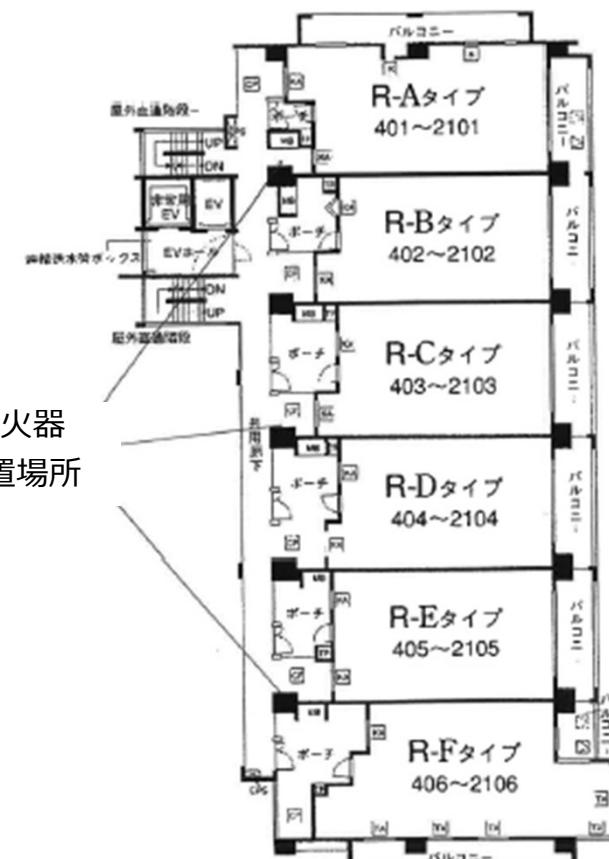
## 非常階段経路

避難する場合は  の経路で外へ出てください。



## 消火器設置場所

設置場所は各階共通です。



## 2-3. 災害発生後（連絡が無くても、震度6弱以上の場合に適用）

- C-1 室内で出火した場合の初期消火を行う。  
スプレー式消火器を用意しておく。（要検討）
- C-2 二次災害に気を付ける。  
転送・落下・飛ばされた電化製品の電源を切る。  
避難する場合はブレーカーを落とす。（ブレーカーを入れた時の通電火災に気を付ける）
- C-3 閉じ込められた場合の救助要請コールについて  
地震直後は対策本部の対応が追い付かない想定をしておく。  
フロア単位の安否確認の声掛けを行う。  
(たとえば震度6弱以上で「無事ですカード」を出す)  
救助が必要なことに気が付いた人は近隣の人と一緒に救助。  
ブレーカーを入れた時の通電火災に気を付ける。  
鍵のかかっていない窓の確認。
- C-4 重傷者が発生した場合の対応消防などへ連絡をする。  
電話が通じない場合は直接消防署へ行き、受入先が決まるまで怪我人を動かさない。
- C-5 自宅のトイレ対策（断水の場合）自宅のトイレは使用しない。  
非常用（携帯）トイレを使用すること。  
(非常用トイレ（防臭袋）、日頃から必ず用意しておく約10日分目安)  
配管の破損による漏れ、詰まりにより逆流による被害が大きく、  
災害時には修理に時間を要する。

- C-6 一般排水（風呂、洗面所、台所）も配管の破損、詰まりにより逆流防止のため使用しない。  
風呂、洗面所、洗濯機の排水はトイレの配管につながっているため、  
配管が破損している場合もあり一切の使用を禁止とする。  
アクアリーナの台所排水はディスポーザーの処理槽に溜まります。  
処理層の汚水はポンプで排水しますが、停電時はポンプが停止するため、  
台所から排水すると処理層から汚水が溢れます。
- C-7 自宅での飲料水の確保。  
ボイラー水工キュートに約300Lの貯水されているが、飲料水としては不可。  
浄水機または沸騰水道水をポリタンクにローリングストック。（3～6日毎に交換）  
各戸では市販の飲料水をストックするよう努める。  
風呂の水を飲料水にできる浄水器の利用などを各戸で検討。
- C-8 ゴミはゴミ置き場ではなく自宅保管とする。  
(ゴミの回収ができないため当面施錠する)
- C-9 不審者対策 見かけない人がいた場合は複数人で声掛けをする。
- C-10 カセットコンロを使用する場合は、通電した際に火災報知器が作動しないように気をつける。
- C-11 自宅の対応ができたら、（できる方は）1Fロビーへ行き、理事会役員に状況を伝える。  
また、理事会からの指示があればそれに従う（★）
- C-12 （できる方は）理事会役員に協力して対応活動を行っていただけます。（★）

## 2-4. その他（参考情報）

- D-1 首都圏直下地震の停電時の復旧想定は、1週間で5割、1ヶ月でほぼ復旧（東電見解）
- D-2 大都市圏では携帯電話の中継局バッテリーは24時間
- D-3 飲料水は1名あたり1日3L必要になります
- D-4 以前は、災害発生時にオーバル広場のベンチを釜土にして炊き出しを行う想定でした。しかし現在は、ベンチが壊れる恐れがあるため釜土にしないこととなっています。（★）